



# 長なしの木

夢と笑顔と「ありがとう」が  
あふれる 長幡小学校  
令和6年 10月28日  
第 15 号

上里の子供たちを育てる合言葉：あいさつ、返事、靴そろえ、集中した清掃（膝つき清掃）

【校長賞】提出された冊数：76冊 1冊以上提出した児童数：35名 10月25日現在



『秋の日は釣瓶（つるべ）落とし』と言われるように、日が暮れるのが一段と早くなります。秋が深まるとともに、冬の足音が少しずつ聞こえてきそうです。

さて、2学期も後半に入りました。学習では、2学期の山場を迎えます。今まで学習してきた内容の定着を確認しながら、新たな学習内容の習得に力を入れてまいります。また、音楽会や持久走大会、芸術鑑賞会などの行事も予定されています。知・徳・体のバランスのとれた子供たちの育成に向けて、「6つのふれあい」体験活動を推進してまいります。

## 家庭学習の充実

学校では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善等に取り組んでいます。子供たちの学習意欲を喚起し、自力で課題を解決する力、友達と協働して課題を解決する力などを育成する授業を目指しています。

課題解決に当たっては、自分の力で粘り強く取り組む、分からないところは友達にきく、ICTを活用する、図書室（本）で調べる等、多様な選択肢が考えられます。それらの選択肢を自分の能力や適性等に応じて選び、取り組んでいくことが求められるようになります。まだまだそこまでの授業は実践できていませんが、一步一步近づいていけるよう研修を積んでまいります。

今年度も子供たちが、家庭学習をがんばっています。「家庭での学習習慣を小学校のうちからつけてほしい」という中学校からの声もあります。できることから御協力をいただくと幸いです。

「やるき」～嫌々やっても、思うような成果は上がらないものです。やっているうちに“やるき”に火が付くこともあります。まずは第一歩を踏み出すことです。

「こんき」～できるようになる、分かるようになるには、時間が必要です。諦めずに粘り強く取り組んでいけるかにかかっています。

「ほんき」～“ながら勉強”はやめましょう。テレビを見ながら、音楽を聞きながら学習するのではなく、短い時間でも集中して取り組んでみることです。



# 子供たちの 自己肯定感は

上里町では、地域少子化対策事業として町内の小学校5年生を対象に、『いのちの大切さ』を伝える出前授業を実施しています。(本校では令和6年10月24日実施)

授業では、いのちの成り立ち(妊娠・出産の仕組み)と、子供たちを性暴力の当事者

にしないための「生命の安全教育」から生命の尊さを学び、「自分は大切な存在」だと感じてもらうことがねらいとなります。日本の子供たちは自己肯定感が、諸外国と比べると低いということがいわれています。今回の授業をとおして「在りのままの自分でいいんだ」「生きていることはすばらしいんだ」等に気付いてくれることを願っています。



講師：齊藤小百合 助産師

# 健やかな体の育成



ボールを操作しやすい場所へ動け!

体力向上は、学力向上と並んで上里町の、また本校にとっても課題の一つとなっています。

本年度、町の体力向上推進委員会の研究委嘱を受け、体力向上にも取り組んでいるところです。10月24日(木)、4年1組青木教諭による体育『みんなでつなごう! プレルゲーム』の授業を参観し、北部教育事務所横山指導主事から指導・講評をいただきました。

児童一人一人が、よく動き、運動量を確保

した授業が展開されていました。チームで場や用具の準備をしたり、片付けを素早くしたりとチームやクラスのまとまりのよさが見られました。日常生活が便利になるにつれ、体を動かす機会等が減少してきています。それに伴い体力も低下してきています。まずは、生活のいろいろな場面(遊びも含めて)で体を動かすことを面倒くさがらないようにしていきたいものです。

輝かせて、輝いて

あなたがあなたであること、ただそれがすばらしい。

私たちは

誰もが両手に

自分だけのすばらしい宝物を

抱えて生まれてきた。

いまではすっかり

忘れてしまっていたとしても、必ず誰もが持っている。

いま、ここにいる意味は

その宝物を磨き続けることなの

だと

気付くことができれば

「自分にはこれが足りない、

あれが足りない」と、

あちこち探し回る日々から

開放される。

他人とは違うあなただけの

宝物の輝き。

輝かせて、輝いて、

生きていこう。

武山廣道 著『禅の言葉』より